

平成26年度第1回 むつ市子ども・子育て会議 会議録（要約）

開催日 平成26年7月25日（金）10:00～12:00

開催場所 むつ市役所本庁舎 大会議室B

出席委員（12名）

長津亜紀江 委員、山形江理子 委員、生田昭彦 委員、中村俊三 委員、
納谷順子 委員、新渡貴美子 委員、佐々木さとみ 委員、宮木正信 委員、
佐々木正 委員、北城 夏美 委員、畑中ゆかり 委員、中村由美子 委員

欠席委員（4名）

畑山由美子 委員、木下有紀子 委員、小川千恵 委員、工藤千栄子 委員

事務局（9名）

保健福祉部 花山部長、井田政策推進監
児童家庭課 掛端課長、中村主幹、小田主幹、木村主任主査、
澁川主事、長谷川主事

【会議次第】

1. 開会
2. 新委員について
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1) むつ市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）について
 - (2) 子ども子育て支援新制度に係る条例案について
 - (3) その他
5. 閉会

【議事録】

【会議次第】

1. 開会
2. 新委員について
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1) 「むつ市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）について」

青森県むつ市子ども・子育て支援事業計画(骨子案)に基づき事務局より説明

○ 会長

乳児の家庭全戸訪問事業は、現在どのくらい訪問しているのですか。

○ 事務局

平成23年度で対象家庭の95%を訪問しています。24年度では94.3%、25年度では98.3%とほぼ全戸の訪問を実施している状況です。

○ 会長

残りの1~2%訪問できていない人の把握はできているのですか。

○ 事務局

数%の行けない部分の中身は、主に里帰り出産のために市外に出ている人がほとんどです。把握できない方については、その方が住んでいる自治体と連絡をとり、訪問していただくなどして無事であることを確認しています。

○ 委員

基本理念が子どものことだけでなく親のことまで書いてあって、子を持つ親にとっては凄く優しくありがたいと思う文章でほっとしました。

制度が変わるこの機会に、幼稚園も保育園の様に長く見ていただけるようにしてほしいです。そして、預かっている時間内で学習できるサービス等の整備が具体的に進められると凄く有り難いと思います。

あとは、事業所に子どもを預けられるような仕組みがあれば、残業していても心配がないと思います。そういった事業所に対しての支援等、何か市としてあったら企業が増えたりするのではないかなと思います。

○ 委員

保育士資格を持っている方は沢山いるが、募集をかけても確保が難しい状況にあるのではないかなって思います。仕事が大変だとか、いろいろな面があると感じられますし、人様のお子様を預かるのでとても大変な仕事なのですが、ふたを開けてみると、お給料が高くないとか、そういう条件も出てくるのではないかなと思っています。

○ 委員

25ページの上の図について、関係の方々の部署と行政サービス支援の提供、相談支援担当等どこの部署がどういう形で、そして横の繋がりがどのようにイメージとしてあるのかというのをまず一つお聞きしたい。

もう一つは、幼稚園・保育園・小学校及び関係機関との連携等とあるが、この為にどんなことをこれから具体的に実践していく方向性があるのか。

次に、発達支援養育体制の充実。これについてもやはり具体的にどういう

形で実践していくイメージがあるのかを知りたい。今の時点でお話していただければと思います。

○ 事務局

これについては協議していくということにしていますので、現時点では、具体的に言えるものは無いです。併せて、1-3の幼児期教育の部分の幼稚園、保育園、小学校の関係機関の連絡強化と、発達支援の養育体制の充実とについても、これから教育委員会等と詰めたと思っています。

○ 委員

事業者の役割のイメージにあると思うのですが「見守り」。まずは見守るということ、目配りをする、子育てを応援するという。そして、28ページの2-3、見守り活動の促進。見守るには、学校・地域・家庭の連携が不可欠だと思います。25ページの図をベースにして、企業も取り組んでいかなければいけないなと思います。

○ 委員

事業主の方はそれほど、子ども子育ての支援を実際にどうすればいいのかというところまで考えてない方がたぶん沢山いると思います。

支援の仕方ってどういう事があるのか。小さいお子様を抱えている従業員の方をどう対応して、育てていけるような体制作りをしていけばいいのかというところまで、なかなかいってない状況じゃないかなと思います。

ですから、具体的にもっと事業者が何をどういう形で支援すればいいのかというところが具体的にみえるものがあったらいいのではないのでしょうか。

○ 会長

25ページの図の中にそういう方たちのこともしっかり入れて、今の見守りなり環境なりのそういうふうなところでの、少し目標的なものをこの中に入れてもいいのかもしれない。

○ 委員

市外から来ている転勤族の方は、市からの情報提供を求めているという話が出ます。

また、私たちも保育するスタッフの年齢が高くなっていて、若いスタッフを募集しているのですがなかなかいない状態。やはりスタッフの確保が少し欲しいという感じです。

○ 会長

子どもたちを保育出来る場も少し高齢化が進んできていて、子育てに携わる専門職なりボランティアの方を含めて、若い人を入れていく方策は何かあ

りませんか。

専門職の確保は、なかなか難しい問題があるということですが、県でもいろいろやっているの、その辺と連動しながら、むつ市でも頑張っていただくということ。何か、高校生とか上手く使えないでしょうか。

○ 委員

一時期、中学校と連携してボランティア活動ということで、子どもたちと遊んでもらうということをやっていたが、希望時間のすれ違い等がありやらなくなりました。

また、子どもを預けてお母さん方にも勉強をしてもらおうという試みをやっているのですが、やはり、行政の方で発達障害の勉強会とかを開いていけば、興味ある方はそれを受けてくれるのではと思います。

○ 会長

中学校も高校も総合的な学習の時間があるので、その中で保育体験が少しでもできるようになると、ある意味親育ちにもなる。そういう親育ちも含めて、教育委員会と相談をしていただけると良いと思います。

それと、障害のある子どもたちに対する支援というところではむつは、むつ養護学校がありますけども、その他に学校の中でも、いろんな発達障害の子どもの問題って大きいのかなと思うのですが。

○ 委員

未就学児もそうですし、小学校、中学校でもかなり壁にぶち当たっているものがあります。小・中学校では専門的に勉強してきている先生もいれば初めて担任する先生もいて、かなり支援が難しい状態。小中学校の先生だけは、担当者同士だけでも連絡を取って対応している。

近年は、むつ養護学校や児童相談所との連携もあり関係している子の情報がつかめるのですが、関係していない子が分からなく、情報をつかめないのです。小学校に入ってからこんな子だったのだと分かることもあります。

○ 会長

「繋がり」そういった皆さんとお話できるようなチャンスとかを作れば、そういうネットワークを作れば、全て解消する訳ではないけども、良い方向に行くということによろしいでしょうか。

○ 委員

小学校も幼稚園・保育園とも繋がってほしいと思います。教育的な部分だけに限らず、性格だったり、苦手な部分だったり、連携して子どもを育てる環境が整っていったらありがたいなと思います。

また、むつ市に住む子どもたちは、年に一回はすばらしいコンサートを聞けるとか、運動面でいくと、各年齢でこれはできるようになるとか。何かそういう具体的なある程度のラインを市として立てることはできないのでしょうか。そうすれば、その子がどこの幼稚園・保育園だったからこういう教育を受けてきたからとかではなく、ある程度の水準が何となく保てるのかなと思うのですが。

○ 事務局

保育所、保育園については、必ずしも規制はあえて市の方ではしていません。幼稚園についても、来年度以降は制度が変わっても、ある程度各施設にお任せする部分っていうのがほとんどだと思います。もし全体で揃えてやるということになれば、基準は作れるのかもしれませんが、市から線を引くっていうことは今のところ考えていません。

○ 会長

やはり各々の市であったり、団体であったりの自主性とか自立性とかに任せている部分があります。しかし、要望があればできるという事ですので、親側も、いい意味でネットワークを作っていただいて要望していただくと良いのかもしれないです。

これから教育委員会とお話をするということですので、上手く未就学児童について学校と連携が上手く取れるような関わりを是非この中に入れていただきたいです。

○ 委員

27ページなのですが、1-3の○の4番目、幼稚園、保育園、小学校ってあるのですが、これ、25ページの図の保育園、幼稚園、認定子ども園ってところをそのまま転記した方がよろしいのではないかなと思います。

○ 事務局：同意

(2) 子ども子育て支援新制度に係る条例案について

事務局より子ども子育て支援新制度に係る3つの条例案について説明

質疑はなかった。

(3) その他

次回会議の日程について9月中の開催を予定していると事務局から説明

5. 閉会